



令和5年度北上小学校 校長室の窓から

北上をわたる風

【目指す児童像】

- 思いやる子ども
- よく考える子ども
- きたえる子ども

令和5年9月4日(月) No. 2 石巻市立北上小学校 校長 伊藤 礼子

実り多い2学期に！

暑い毎日が続いています。「地球温暖化」どころか「地球沸騰化」という言葉も聞かれるようになりました。子供たちは外遊びが大好きで、暑さに負けず校庭を駆け回っていますが、校庭の「暑さ指数」(WBG T)によっては、遊びの時間を早く切り上げて室内で水分補給やクールダウンの時間を確保したり、外遊びを中止としたりしています。北上らしい、涼しい風が吹き渡る季節が待ち遠しいです。

2学期は、一年で一番長く、多くの学習が計画される学期です。修学旅行や学芸会などの大きな行事があるだけでなく、各学年、各教科の「一年の山場」と言われるような内容を学習します。少し難しいことでも粘り強くやり抜き、チャレンジを楽しむことができる気力と体力を養い、子供たちが実り多い2学期を送れるよう支えていきたいと思っています。

2学期も、どうぞよろしくお願いします。



【8/28 始業式の「お話」(要旨)】

夏休み中、たくさんの方が毎日のようにプールを利用しました。そして、たくさんの方が泳げるようになったり今までより早く泳げるようになったりしました。すごいですね。繰り返し練習した成果です。

この夏は、宮城県の前輩たちが大活躍を見せてくれました。高校野球の仙台育英高校です。決勝戦で負けてしまいましたが、仙台駅では2000人も人が出迎えたそうです。「最後まであきらめない姿がかっこよかった」とインタビューに答えた小学生もいました。育英の選手も、毎日の厳しい練習を繰り返してきたはずですが。繰り返し頑張る、最後まで頑張る、笑顔で頑張ることは、勝ち負けよりももっと自分を成長させ、周りにもそれが伝わるのですね。

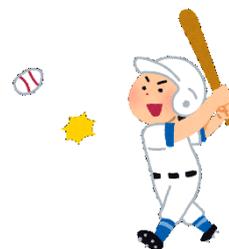
さて、昔の中国の「孔子」という先生が、こんなことを言っています。

「これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」
できるだけでは、「好きだ」と思ってやっている人にはかなわないし、「好きだ」と思う人も楽しんでやっている人にはかなわない、という意味です。



2学期のみなさんは、いろいろなことを頑張っていきますが、そのことを好きになって、楽しみながら頑張れるようになると、自分の成長になりますし、育英の選手たちのように、周りの人の心にも頑張りが伝わります。

1学期に続けてきた「伝える」のミッションに、2学期は「楽しく頑張る」も付け加えて、北上小学校をますます良い学校にしていきたいと思います。



北上っ子の「課題」は？～学力調査の結果から～

7月の教育相談には、暑い中おいでいただき、ありがとうございました。児童一人一人の頑張る姿やこれから伸ばしたい点について、担任とおうちの方が直接お話しできる貴重な機会となりました。

夏休み中には、職員の間でも「石巻市標準学力調査」や「全国学力学習状況調査」の結果などを踏まえ、北上小学校の子供たちの学習の様子や暮らし方について、良い点や課題と思われる点を話し合いました。

【良い点】

- ・漢字の読み書きが身に付いている子が多い。
 - 繰り返し練習し、よく使っている子が多い。
- ・どこに書かれているかを見つけ、正しく写し書きできる子が多い。
 - 素早く目と手を動かして学習する訓練ができている子が多い。
- ・あきらめずに、最後まで問題に答えようとする子が多い。
 - 励ましに応え、素直に頑張ることができる子が多い。
- ・朝は、決まった時間に起き、朝食をとって登校している子が多い。
 - 御家庭で朝の生活リズムを整えていただいていることに感謝します。



【課題点】

- ・問題文が長いと、読むのをあきらめ、タイトルや挿絵から内容を判断してしまう子がいる。
 - 読書経験を増やし、長文に慣れるように励ましていきます。
- ・比べたりまとめたりして表すことや、使う語や文字数を制限された文を書くことに慣れていない。
 - 授業中、このような課題を与えていきます。
- ・「自分はどうか」を考えることが苦手。
 - 行事等の感想など、その場で考えて話すことを仕掛けていきます。
- ・図形の定義や計算の意味を覚えていない子が多い。
 - 書く作業をしっかりと行い、なぜそうなるかを納得することを大切にしていきます。
- ・グラフや表の活用の仕方が分からない子が多い。
 - 算数に限らず、発表の場などで意図的に活用させていきます。
- ・デジタルメディアに接している時間が長い（学習目的以外）。就寝時刻が不規則な子がいる。
 - 自分の生活を自分でコントロールする力が付くよう繰り返し働き掛けます。

先生方からは、学校生活や授業の中で、子供たちが「学んだことを役立てる」経験ができるように工夫していこう、との声がありました。「令和の学校教育」で求められる学びについて、学校でも足並みをそろえて向かっていきたいと思えます。

勉強が全てではありませんが、学校生活のほとんどは「授業中」ですから、学習への苦手意識があると学校生活そのものが楽しめないことがあります。また、小学校までの基礎基本は中学・高校で求められる

多岐な学習の土台であり、「常識」として社会生活を支えていくものでもあります。

素直で、指示されたことがしっかりできる北上っ子の将来の幸せのため、さらに「自分で考えてできる」「進んでチャレンジする」などの力が付くように導いていきましょう。ご家庭でも、ぜひいろいろな体験・経験（失敗を乗り越え体験も含めて）をさせ、心のたくましさを育てていただければと思います。

